

コラム

フットパス (footpath)

近年、ロングトレイルがブームとなっています。全国各地でロングトレイルの整備が進み、それを核とした地域づくりも盛んです(特集P2の信越トレイルを参照)。その影で、秘かに広まりつつあるのが、“フットパス”です。みなさんはもうご存じでしょうか?

フットパスとは、「イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径(こみち)【Path】』のことです。」(日本フットパス協会の



HPより)。ロングトレイルが原生自然の中を通る道というイメージに対して、フットパスは身近な自然を楽しむための道ともいえます。ロングトレイルと同様に、このフットパスを活用した地域づくりが、現在、日本各地で進みつつあります。長野県内では栄村や伊那市、小布施町などで取り組まれています。一度訪れてみてはいかがでしょうか?

(浜田 崇)

フットパスについて

もっと詳しく知りたい方は

『誰も知らなかった英国流ウォーキングの秘密』
(市村操一著、山と溪谷社)
『フットパスによるまちづくり』
(神谷由紀子著、水曜社)

コラム

早歩きですすむ旅

手頃なサイズに多様な自然環境を備えた日本は、歩くのに適した地域だ。なかでも我が信州には、標高2千メートルを超えるアルプス山脈をはじめ、歩かなければたどれないロングトレイルが縦横無尽に延びている。ゆっくり進むのも良いが、私は敢えて早歩きをオススメしたい。装備を軽量化することで一日の行動範囲は飛躍的に広がる。歴史上の道を辿るのも良い、近郊の里山をぐるりとするのも良い。簡易テントを持っていくつかの山塊を縦断するのも面白い。はるか遠くに見えるあの山の、そのまた先には、自らの身体能力を使い切ったときの充実感と内なる自然の再

発見が待っている。なお、このようなスタイルを楽しむには、ルートの下調べや十分なトレーニングを積んでおくのが望ましい。

(北野 聡)



善光寺西街道にある切通 (2017年12月撮影)